

2005年9月27日

京都大学未来フォーラム（第17回）を開催

時計台記念館・百周年記念ホールにおいて、恒例となった未来フォーラムが開催されました。17回目となる今回は、本学文学部の卒業生で能楽笛方森田流 帆足 正規 氏に「能をつかまえる」というテーマでご講演いただきました。

フォーラムでは、まず帆足氏の笛の実演があり、約300名の参加者は、ひととき、静けさの中に力強い響きを持つ笛の音に酔いしれました。そのあと、今度は打って変わって気さくな人柄をにじませ、ご自身が能の笛方を志すことになった経緯などを話されました。「能をつかまえる」という表現は、帆足氏が、尾池総長のシンボルマークである鯨（ナマズ）からことわざの「瓢箪鯨（ひょうたんなまず：とらえどころのないさま）」を連想して選んだ言葉だそうです。能をつかみどころのないものと感じる帆足氏は、「能は単に型を教えるものではなく、腹の底から湧いてくるのを待つ」という師匠の指導方針について話されました。能の世界に本学の自学自習の精神につながる要素が感じられ、参加者はメモを取るなど話に聞き入っていました。

